

ラグビーフットボール
(五)

廣島英雄

「フエヤーキヤツチ」

敵の蹴つた球或は「ノック」つて「タッチダウン」(地上に球をつけること)したところを云ふ。

接に受け止めると同時に踵この際持ち歸へる前に「ポ
で地上に「マーク」し「フル」の在つた地點に於て
エヤーキヤツチ」を宣言し「スクラメーヂ」が命せら
審判がそれを認めたときはれる又防禦側の競技者が故
その人に「フリーキック」意に球を味方の「インゴー
を與ふ。若し競技者が「フル」内に蹴り込み「バス」
エヤーキヤツチ」を行へば「ノック」若しくは「キヤ
假令「ノックオン」或は「スリーバツク」してその球を
ローイングフオワード」の死に至らしめし場合「トラ
笛が吹かれても「フリーキック」の場合を除き球は「キ
ック」が與へられる。

この際「ボール」を受取る「キャリーバック」せられ
方法として参考まで一言したる所に持ち戻されてその
て置く、飛んで来る「ボール」地點にて「スクラメーヂ」
ル」を見守ることは勿論でとす。(關東ラグビーユニ
ある。そして「ボール」がオン規則第三十二條)

落下せんとする地點まで早く駆けつけて兩腕を差し伸べ左右の手を並べ片脚を伸し、踵を地上につけて「ボツチダウン」か判らぬ様な「ール」を受取るときその兩ときがあるかうした場合 hands を以つて胸下にだき込む「ゴールライン」外の五「ヤード」の地點で「スクラム」様にして「マーク」と呼ぶのである。

を命ずるが敵も一人味方も

「キャリーバック」
CarryBack

「ライ」を認めるのである。

「デッドボール」

DeadBall

球或は球を保持する競技者が「デッドボールライン」に觸れ或は横切るならば、球は死したるものとし競技は停止さるべきである。而して敵かなしたるときは「ドロツブアウト」となり

二十五「ヤードライン」から味方の「ドロップキック」によつて再び「ゲーム」が續けられ、若し味方のなしたるときは「キャリーバック」となり「スクラム」が命ぜらる（前十二項参照せよ）

[14 「ラインアウトブレ

✓] Line outplay

球又は球を保持して居る競技者が「タッチライン」に觸れたり或はそれを横切る場合球は「タッチ」に在るその

球に最後に觸れた側の
相手方に屬す（但し球

を保持する競技者が相
のものによつて「タツ
押し出された場合を除

「タツチ」になつた箇所からその球の屬する側の一人が次の方法の何れかによつて球を競技に移す、(このとき敵味方の「フオワード」は各々一列になつて「タツチライン」に直角に並ぶ)

即ち

①「タッチライン」に直角

より五「ヤード」の所に落
つる様に球を投げること。

④或は球が「タツチ」になつた所から、「タツチライシ」に直角に十「ヤード」の箇所を「スクラメーヂ」すること。

競技場の四隅に接し「ゴールライン」及「タツチャイン」の各延長間の地域を「タツチャインゴール」と言ふ、四隅の旗及竿は「タツチャインゴール」である。

備考若し球或は球を保持する競技者が球を地に着ける前に隅の旗或は竿に觸れたならばその球は「タツチャインゴール」である。



「インゴール」である
と看做^{ミナ}されなければならぬ、競技者は自身「タツチインゴール」に在つても球が「タツチインゴール」にな
いときは猶足を以て球を競技する事
が出来、或は競技者が球を保持して
居なければ手を球に附けて「トライ
」を得る事が出来る

得點

〔一〕「トライ」三點
〔二〕「トライ」から
の「ゴール」（此の
場合「トライ」は計

①の場合「ボール」が「タ
ツチライン」に直角に投げ
られなかつた場合及五「ヤ
ード」に達しなかつた場合
は「タツチライン」から十
「ヤード」の地點にて「ス
クラム」が命ぜられる。

算しない)……………五點

(三)「ドロップゴール」四點

(試合中「ドロップキック」で敵の横木を越したならば之を「ドロップゴール」と言ふ)

(四)「マリック」(フエヤーキヤツチ)や「ペナルティ」(罰)によつて「ゴールキック」の成つた場合……三點